水稲 農作業メモ

水　稲
田代　好幸
農畜産課
0969-22-1105

◆ 令和８年産早期水稲について

令和8年産の早期水稲の準備が2月下旬より始まります。7年産については、気象状況の変化、高温障害等による品質低下はありましたが、収量はおおむね増収の地域がありました。

これからも、高温障害等による被害が想定されることから、堆肥や土壌改良資材（規格数量）を投入し、地力の改善を図りましょう。
＊作土を15㎝以上確保するよう心掛けてください。

◆ 健苗の育成

種子は充実した、健全なものを使いましょう。そのためには必ず種子選（比重選）を行ってください。（比重は水10リットルに塩2kg）

病害虫防除のために、種子消毒（エコホープDJ200倍液に24時間浸漬）と育苗箱の洗浄をしましょう。

早期水稲の育苗日数は25日程度ですので、田植え日から逆算して播種日を決定しましょう。2葉苗～2.5葉苗の場合の播種量は、乾籾で150g（催芽籾では180g）が基準となります。播種に最も適しているのは、ハト胸状態の時です。そのためには十分に浸種を行って、水の入れ替えと1日1回は攪拌して、水温が均一になるようにしましょう。

◆ 田植えまでの水田の管理

雑草及びジャンボタニシの密度低減には、冬場の耕起が最も効果的です。トラクターによる破砕を行うとともに、寒風にさらすことにより越冬する個体を減らすことができます。

元肥の散布時期について、元肥の散布から田植えまでの期間が空きすぎると、稲が育つ前に元肥成分が溶脱して生育不良となります。また、一発肥料の場合は肥料成分の溶出が早まり、本来効いてほしい時期に肥料が効かず登熟・充実不足となりますので、代かき直前に行いましょう。

果樹

2月・3月の柑橘園管理

果　樹
白石　一斗
下島営農指導センター
080-1729-1633

1. 土づくり

良い作物は健全な土づくりから始まります。下記の表は10ａ当たりの目安量です。

表を参考に、資材を投入してください。

時　期	資材名	10a当たり	備　考
2～3月（収穫後）	堆　肥	2,000 kg	完熟物
	客　土	4,000 kg	3㎝以内
	ココナッツピート	20 袋以上	2キュービック 120ℓ／11kg）
	土の恵み	12 袋以上	堆肥・ヤシガラの代わり

2. 葉面散布

まずは樹勢回復をし、その後花芽分化促進をしましょう。

目的	薬　剤　名	希釈倍数	備　考
樹勢回復	尿　素　又は ニュージューシーN14 又は神協スピリッツ	500 倍	収穫後3回程度集中散布
花芽分化促進	ファーメント　又は ジューシーエース	500 倍	樹勢回復後3回程度散布

3. 病害虫防除

対象病害虫	品　種	農薬名	希釈倍数	備 考
ミカンハダニ	中晩柑	ハーベストオイル	80 倍	発 芽 前
	温　州		100 倍	発 芽 前
カイガラムシ	温州、中晩柑	アプロード水和剤	1,000 倍	発 芽 前

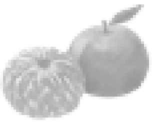
※温州、中晩柑のかいよう病対策はICボルドー（66D）60倍又はムッシュボルドー（DF）500倍も使用可。

4. 施　肥

○通常タイプ

栽培タイプ	肥料名	品種名	施肥時期	10a当たり
全	炭酸苦土石灰	全品種	2月上旬	10袋
超省力化（年1回）	新有機中晩柑一発（13-8-7-2）	河内晩柑・清見・甘夏・パール柑・デコポン	2月上旬	10袋
省力タイプ	新アグリロング28号（12-8-8-2）	河内晩柑・清見・甘夏・パール柑・デコポン	3月上旬	5袋
全	硫マグエース	全品種	3月中旬	2袋

※（NPKM g）の成分量



花卉

スリップス（アザミウマ）について

花　卉
竹川　慶剛
上島営農指導センター
080-1729-1637

今回は花き類で高温乾燥時に多発するスリップスについて紹介します。

①ミカンキイロアザミウマ(主に花・蕾に寄生)は、体長1.0～1.7㎜。黄色黒褐色。

②ミナミキイロアザミウマ(主に葉に寄生)は、体長1.3㎜前後。全体が黄色で羽の合わせ目が黒く筋状に見える。

○生理生態

卵～成虫までの期間は10～20日

成虫の寿命は30～40日

成虫の1匹の雌は150～300個を産卵し、1ヶ月後に300倍に増殖します。

蛹の時期が近づくと地表へ移動し、土中で蛹になります。休眠しないので、施設内では冬でも発生します。

施設では2月下旬から増加し始め、5～6月に最も活発に活動し、初夏～初秋に大量に増加します。成虫の飛翔能力は低く、自力で5m程度しか移動できません。

○被害の特徴

・新葉、新芽でひっかき傷に似た症状や茎の曲がりや葉の奇形が見られます。

芽の中に潜り込んでいるため、発見が難しくなります。

・展開葉に寄生した場合、加害部が白く光ったように見え、周辺に小さく茶～黄色の虫が見られます。

・蕾に侵入した場合、特に色の濃い品種ではカスリ状の症状が現れます。

○防除対策

〈耕種的防除〉

・施設内では、作付前に除草を行い、ハウスは閉め切り、次の作付けまで20日以上あけ、成虫を餓死させます。

・本種の発生した施設では土壌消毒を行い、蛹または成虫を死滅させます。

・株や苗で持ち込まれる場合が最も多く、株や苗を購入する場合は本種が寄生しているかどうか確認します。

・黄色、青色の粘着トラップで発生の有無を観察して、発生動向に十分注意します。

・木酢液を噴霧することで、スリップスを忌避する効果があります。

・砂糖を200倍～500倍に希釈し、有機リン剤を溶かして噴霧すると、新芽や蕾から這いだし、舐めて死滅します。

〈薬剤防除〉

・薬剤防除については、お近くの営農センターまでお問い合わせください。